

2025年度自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人東洋大学 東洋大学附属京北幼稚園

I. 2025年度の本園の保育活動について

2024年度より「東洋大学附属京北幼稚園」と名称を変更し、教育「5つの柱」を掲げ、新たな歩みを始めた。今年度の保育活動は、教育「5つの柱」を中核として、東洋大学との一層の連携強化を図り、人間形成の基盤となる多様な力を育む保育を目指した取り組みを行ってきた。

＜教育「5つの柱」＞

1. お互いを大切にし、健やかに生きる力を育む
2. 遊びを通して、主体的に学ぶ力を育む
3. よく考え、自ら行動する力を育む
4. 豊かな環境の中で、創造性や発想力を育む
5. 多様性に出会い、共に生きる力を育む

II. 自己評価及び学校関係者評価の結果について

「平成26年度 学校評価実施要領」に則り、(1)自己評価:教職員対象 (2)学校関係者評価:保護者対象の調査を行った。本項では、その結果を示し、本園の現状と課題を述べる。

1. 教員自己評価項目の達成及び取組状況

	自己評価項目	評価(※イ/ト)	取組状況
【園児の指導に関すること】			
1	指導計画	B 0.67	概ね評価が高い項目群であるが、「職員会議等における検討を指導計画に生かす」や「保育記録をもとに話し合い、指導計画に生かす」といった項目で評価が下がっており、教員間による相互検討の必要性の認識が窺える。
2	環境の構成	B 0.50	例年課題となっている保育環境の項目でやや低い評価が見られた。特に、「生物の生育等を通して環境を捉え、保育に生かす配慮」は、改善の努力をしてきた項目であるが、継続して取り組む必要を示唆している。
3	保育方法展開	B 1.21	「園児と共に心から楽しむ」など、7項目中4項目については、高い評価を維持した。残りの3項目では、評価が1.0を下回った。本園の保育の強みとするところである「満足感や充実感を園児に与えた」や「善悪の判断や思いやりの気持ちを適切な言葉で伝えた」などの項目がこれに含まれる。
【学級経営その他に関すること】			
4	学級経営	B 0.56	学級経営課題として昨年度から継続して評価が低いのは、「施設設備の安全管理、園児への安全指導が万全である」という点であり、園の課題を反映したものと言える。また、「園児を大切にし、園児同士がお互いを大切にするクラス運営」の難しさを感じていることがわかる。
5	保護者への対応	B 1.04	家庭との連携や園児の理解を深める情報共有に関して、改善すべき課題があるとの認識が窺える。現状、事故や問題が生じていないが、保護者対応のリスクを感じている。

【園の取り組み 教育「5つの柱」に関すること】			
6	今年度の取り組み	B 0.52	2024年度からの園の重点施策に関しては、「5つの柱」の実践を含め、各教員が努力している姿勢がある。その中で、「多様性に出会い、共に生きる力を育む」については、取り組みの難しさが窺える。また、「保育の専門職として互いに尊重し、専門職チームとして活動している」のマイナス評価は、改善のための重要な取り組みを示唆するものと言える。

評価（A…十分に達成している B…達成している C…取り組みが不十分である D…ほとんど取り組みができていない）

*：各教員の回答をA=2ポイント、B=1ポイント、C=△1ポイント、D=△2ポイントとして自己評価項目ごとに平均値を算出し、1.5以上を評価A、0.5以上1.5未満を評価B、△0.5以上0.5未満を評価C、△0.5未満を評価Dとした。

2. 保護者アンケートによる評価

保護者評価項目	評価(ポイント*)	評価について
1. 子どもの様子	A 1.68 (1.76)	総じて高評価が得られており、「毎日園に行くのが楽しみ」(1.64)や「園での生活を通じて確実に成長している」(1.83)など、園での生活が子どもたちにとって充実していることが窺える。
2. 教員のかかわり	A 1.74 (1.71)	「子どもを理解し、誠実に保育をしている」(1.85)や「明るく熱心」(1.92)など、教員の姿勢や対応に対する評価は極めて高い。主体性を育む教育や個性を大切にしている姿勢も含め子どもの成長を促す取り組みが評価されている。「園での子どもの様子や連絡を適切に伝える」(1.60)についても昨年度よりやや改善した。
3. 園の対応や姿勢	A 1.67 (1.71)	「保護者からの相談に誠実に対応」(1.75)や「緊急連絡がスムーズに伝わる」(1.75)、「『えんだより』などで活動をわかりやすく伝えている」(1.83)など、保護者対応や家庭との連携に関する評価が高い。一方、「教育目標や内容の説明や情報提供」に関しては、昨年度より0.23の低下が見られた。
4. 教育「5つの柱」の取り組み	A 1.55 (1.64)	項目群の平均は、1.5を超えており、「遊びを通して、主体的に学ぶ力を育む」(1.70)や「お互いを大切にし、健やかに生きる力を育む」(1.66)など評価が高い。その中で、昨年度から0.26低下したのが思考力や自発的行動力の育成に関する項目である。多様性の受容、創造性の促進等と併せ、一層の取り組みが求められる。
5. 園運営の重点項目	A 1.56 (1.63)	5項目中4項目の平均は、1.5を超えており、保護者との連携を図るアプリ「コドモン」も定着した。わずかではあるが園の保育環境としての魅力も評価が上がった。一方、「園の教職員の配置、構成等の人員体制」(1.43)については、0.23低下した。園運営の課題として改善が必要である。
6. 預かり保育	B 1.29 (1.52)	項目群の平均が1.5に満たなかった。特に、「預かり保育は利用しやすい」(1.06)は、昨年度に比べ大きく評価が低下した(▲0.46)。利用方法や保育日数の見直し、また保育内容の充実等、改善が必要である。

評価（A…あてはまる B…まああてはまる C…あまりあてはまらない D…あてはまらない）

*：保護者の回答をA=2ポイント、B=1ポイント、C=△1ポイント、D=△2ポイントとして評価項目ごとに平均値を算出し、教員自己評価と同等に評価A～評価Dとした。

3. 総合的な評価結果

評価(ポイント)	内 容
教員自己評価 B (0.79)	教員自己評価は、全体として高評価であるが、評価平均は昨年度より低下傾向が見られた。中でも、昨年度からの課題である「環境の構成」における「自然の変化や生物の生育などを通して環境をとらえ、保育に生かす」、「学級経営」における「施設設備の安全管理、園児への安全指導」に加え、「保育の専門職として互いに尊重し、専門性を高め合うチームとして活動」の評価が低下し、今後取り組むべき課題となった。
保護者評価 A (1.60)	保護者評価は、昨年度同様に全体的に高評価であった。特に「子どもの様子」や「教員のかかわり」に関する項目での満足度が高い。一方で、「園の対応や姿勢」の情報共有の部分の改善、「教育5つの柱」における思考力・行動力の育成、園の人員体制の改善、「預かり保育」の運営改善が取り組むべき課題と言える。

4. 評価結果から 2026 年度に改善すべき点

	課 題	改善に向けた計画
1	「自然との関わり・生命尊重」に繋がる探究活動の一層の拡充	2024年度より取り組んできた「自然との関わり・生命尊重」に繋がる活動について、園庭や菜園を中心として、一層の充実を図ると共に、とうきょうすくわくプログラムの展開と併せ、園児の探究活動を活性化するための環境整備を図る。
2	施設設備の安全管理、園児への安全指導の強化	施設設備の安全管理については、預かり保育の拡充等による園の稼働時間の増に対応した改善を今後も継続する。また、外部者の侵入防止等の施設面の整備も安全管理上重要であり、引き続き改善を図る努力をする。現状の園の警備体制の継続と共に、園児への安全指導についてもより効果的な指導方法を検討・実施していく。
3	人員体制整備と専門性を高め合う教員集団としての関係強化	通常保育、預かり保育共に一層の充実を図るため、人員配置の適正化を図り、協働の体制整備を行う。併せて、職員会議や実践検討会など保育専門職として相互に研鑽し、力を高め合う機会を設ける。
4	預かり保育の内容の充実及び保育の質の向上	2026年度の預かり保育事業において、利用園児や保護者の声を聞き、保育内容の改善を図ると共に、保育の質を高める工夫をする。特に、長期休暇中の預かり保育における「えいごであそぼう」プログラムや科学遊び、絵本の読み聞かせ活動等、魅力ある独自の取り組みを進める。
5	保護者説明とリスクマネジメントの強化	園の取組みに関する保護者への周知や丁寧な説明を心がけ、保護者との信頼関係を深める。関連して「事故、問題が起きた場合の保護者への説明、対応」「問題行動やけが」などに対して、ヒヤリハット事例の収集や検討を行うなど、園としてのリスクマネジメントの強化を図る。

Ⅲ. 学校関係者評価委員会の評価

1. 目的

本園の教育活動その他の学校運営の状況について、学校関係者による多面的な評価を得ることに
より園の適切な運営と改善をはかる。

2. スケジュール

2025年10月17日（金）：第1回委員会

①委員の紹介

②委員会の目的・役割について

③2025 年度幼稚園運営について

④質疑応答、意見交換

⑤園内の見学

2026 年 3 月 9 日（月）：第 2 回委員会

①前回委員会以降の園の運営状況報告

②学校評価保護者アンケート及び教員自己評価票の集計結果報告

③2025 年度学校関係者評価報告書作成について

3. 委員

<園外委員>

①幼児教育に関する理解及び識見を有する者

井口 眞美 氏（実践女子大学生生活科学部生活文化学科教授）

内田 千春 氏（東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科教授）

②幼稚園に在籍する園児の保護者

斉藤 慶子 氏（2025 年度父母の会会長）

③近隣地域からの代表者（近隣町内会等）

植野 久代 氏

④近隣地域の小学校校長

宮本 達也 氏（文京区立駕籠町小学校校長）

<園内委員>

中原 美恵（園長） * 議長

高橋 季巳江（教頭）

4. 評価結果

10 月の委員会では、2025 年度の運営方針について報告を受け、園内の見学をした。その際、2024 年度の評価結果に基づき、引き続き安全管理や保育環境の向上が取り組まれていることが確認された。具体的には各教室の室内窓等の透明樹脂板の入れ替えによる各クラスの採光の向上や各クラスの環境の工夫が確認された。また、少子化、幼稚園入園希望者の減少への対策として、Instagram 等 SNS の活用について話題にあがった。今後も、園児数獲得の手だてを講じる必要がある。

2025 年度末の教員の自己評価から、「園児と共に心から楽しむ」等、保育方法の展開に関する内容については概ね評価が高く、適切に保育が展開されていると評価した。ただし、「指導計画に関する教員間の話し合い」「自然環境を活かした保育の展開」「多様に配慮した関わり」等に関しては、話し合いの時間を設定する、講師を招聘して研修を行う等、具体的な改善策を処する必要がある。園目標 4 に「豊かな環境の中で」との文言があるが、本園が捉える「豊かな環境」とはどのような環境なのか、みんなで考えることから、本園で可能な「環境に関する保育内容」が見えてくるのではないかと。

保護者のアンケート結果を見ても、総じて満足度は高い。特に、温かい雰囲気のある園文化が形成されていること、落ち着いた規模の園であることを生かしクラスを超えて園全体で子どもたちを見守っていることがその理由として挙げられる。遊びを通じた教育、クラスでの活動等、日々の保育の様子を教員が発信していることで、保護者の理解も深まっていると言えるだろう。

預かり保育に関しては、保護者のニーズの高まりと共に、昨年度より評価が下がっている。これは、預かり保育の日数の増加に伴う教職員の負担増を軽減するため、前週末までの利用申し込みに変更したことも影響していると考えられる。柔軟な利用が可能になるよう検討するなど、保育内容の改善等、可能な部分は改善すべきだと思うが、それによって、教職員の負担が増え、本来の保育に支障が出ないよう配慮する必要がある。その点に関しては、保護者にも理解をしてもらえるよう丁寧に説明することが求められる。